

## これからを担う土木技術者は頼もしい



中村 光  
名古屋大学  
大学院工学研究科  
土木工学専攻 教授

私事ではあるが、土木を目指した理由を紹介したい。多少不確かではあるが、受験生向けの学科案内の資料に、「ダム一つ作るには10年かかり、車は1時間で何台も作られます。あなたはどちらを作る人生を選びますか?」というような記述があったと記憶している。地元は愛知県の三河地方で自動車関連の企業が多い地域だったことから、特に理由なく機械系の学科を考えていた。しかし、この文章を読んで一生に幾つかのダムを作る生き方がいいかなと思ひ、第一志望を土木に変更した。全く単純な理由からであったが、山の中で作業着を着、重機に囲まれて働く姿を具体的に想像した気がする。また、地域的に明治用水のことを小学生の時からしばしば習っており、建設事業の大変さとその後の効果を知識として持っていた。土木を学ぶと決めたことで、地域の役に立てるということを、あらためて認識した記憶もある。

数年前に、土木の仕事に魅力を感じられず、土木以外に就職する学生が増えているのではとの声がよく聞かれた。そのような状況に対し、土木学会中部支部では、2012年に中部支部エリアの土木系の大学・高専生400名以上に、土木を学ぶきっかけや土木に対するイメージ、職業選択に対する意識調査を行い、筆者もその調査に係わった<sup>1)</sup>。アンケートの結果では、土木へ進学したきっかけは、「ものづくりに興味」と「土木への興味」がいずれも3割程度と多数であった。土木の魅力については、複数回答で「社会貢献」が一番多く6割近く、次が「スケールの大きさ」で5割近くであった。また、土木分野に就職を志望している土木系学生は8割近い結果であった。

同時に、中部支部エリア内の行政・民間インフラ会社・建設会社・コンサルタント会社などの就職後10年程度以内の若手技術者800名にもアンケートを行った。土木へ進学したきっかけの上位は、「ものづくりに興味」と「土木への興味」で学生と同じであったが、「ものづくりに興味」が5割近くと学生よりも高い割合であった。また仕事については、9割近くがやりがいがあると答え、「経験が増える」ことが第一の理由として挙がっていた。

このときには、一般的にいわれているのとは違い、ほとんどの学生は土木への就職を志望し、学生や若手技術者が土木に魅力と

やりがいを感じていることを確認できた。また、土木の魅力を社会貢献としている割合が多く、単なるものづくりだけでなく、人の役に立ちたいという気持ちが強いのだなと感じた。

今回の原稿を書くのをきっかけに筆者の研究室の学生に、土木を学ぶきっかけや土木技術者としての夢を聞いてみた。学生は、コンクリートを研究する4年生以上の日本人6名、留学生11名である。土木を学ぶきっかけは、日本人は入試の結果で第一志望学科を落ちたためが半数であったが、日本の景色に影響を与える仕事をしたかったとの意見もあった。第一志望でなかった学生も、現在では全員土木に進んでよかったと感じ、各人が土木技術者としての具体的な将来像を描いている。一方留学生は、インフラの整備を通して生活の改善や国を豊かにしたいという理由が多く、地震の危険度が高い国の学生は安全な国を作りたいとの理由を出していた。また、土木技術者としての夢は、日本人・留学生を問わず、大きなプロジェクトに係わりたいということと、インフラの整備をとおして人々の生活や社会をよくしたい・支えたいとの思いを持っていた。今まで、研究室の学生にこのようなことをあえて聞くことはなかったが、学生の思いを頼もしく感じた次第である。また、留学生の国をよくしたいという思いは強く、アフリカからの学生の、医者よりも多くの人の命を救うことが出来る仕事である、との意見が印象的であった。

文明とは、人間と装置と制度からなる巨大なシステムであると定義をされる場合がある。時代時代の社会の基本的なところを支えている装置が社会基盤であり、それらは土木工学による技術の成果である。したがって、若い土木技術者がどのような夢を描くかで、文明の形を築くことに関わると言っても過言ではないと信じている。土木を学ぶ若者は、国を問わずしっかりとした思いと夢を持っている。その夢が、より多くの人が幸せに暮らせる世界を作ってくれるであろう。日本では、維持管理の重要性をいわれるが、その時にインフラ劣化防止と言えばアンチエイジングであり、インフラ再生と言えば若返りにも繋がる。同じものを語る場合でも、夢を感じるような言い方をすれば、新しい取組みや考え方も生まれるのではないだろうか。今の若い人たちは頼もしい。土木を目指す若い人の気持ちは昔も今、国が違っても変わらない。世代を超えて、もっと夢を語りあうのがいいのではないだろうか。

1) 土木学会中部支部：土木分野における若手人材育成に関する検討委員会報告書、2012年、<https://jsce-chubu.jp/chubu/wp-content/uploads/2016/01/sc-report2012.pdf>